

# Slack から Google SpreadSheet にデータを転記するシステムの取り扱い説明書

Rj.Chiba & ChatGPT

2023 年 3 月 11 日

## 1 はじめに

本取り扱い説明書では、Slack データ自動転記システムの利用方法について説明します。本システムは、Slack 上のチャンネル上で発言されたデータを GoogleSpreadSheet 上に自動で転記することができます。本書を読み、正しくシステムを利用することで、チームの生産性向上に役立てていただけます。

## 2 機能概要

本システムは以下の機能を有します。

- Slack API を使用してチャンネル上の発言を取得
- Google Apps Script を使用して取得した発言を Google SpreadSheet に転記
- 取得したデータは、チャンネルごとに SpreadSheet 上に保管される
- 特定の channel を保存対象から外すことが可能
- 一定期間ごとに自動でスクリプトが実行され、Slack のデータが 90 日で削除されても、データが Google SpreadSheet 上に保存される

## 3 手順

本システムを使用するためには以下の手順を実行してください。

### 3.1 Slack App の設定

1. Slack App の管理者権限を持っているユーザーでログインし、「[Slack API : Application](#)」を開く。

2. 「Create New App」をクリックする。
3. アプリの名前を入力し、「Create App」をクリックする。
4. 「Add features and functionality」のメニューから「Bots」をクリックする。
5. 「Add a Bot User」をクリックし、Bot の名前を入力する。
6. 「OAuth & Permissions」のメニューから、以下のスコープを追加する。
  - channels:history
  - channels:read
  - groups:history
  - groups:read
  - im:history
  - im:read
  - mpim:history
  - mpim:read
7. 「Install App」をクリックし、許可を与える。
8. 「OAuth & Permissions」の「Bot User OAuth Access Token」をメモする。

### 3.2 スプレッドシートの設定

1. Google Drive のページを開き、新規スプレッドシートを作成する。
2. 「拡張機能」→「スクリプトエディタ」をクリックする。
3. 作成されたスクリプトエディタで、[Github](#) にあるコードをコピー&ペーストする。
4. `const TOKEN = 'YOUR_SLACK_API_TOKEN';` に「Bot User OAuth Access Token」を設定する。
5. `const timeZone` にタイムゾーンを設定する (日本国であれば `'Asia/Tokyo'`)。
6. スプレッドシートに戻り、「setups」という名前のシートを作成する。
7. 「setups」の「A1」から「A9」まで、次の項目を入力する。
8. 「setups」の「B4」から「B9」まで、保存対象外のチャンネル ID を入力する。

### 3.3 システムの立ち上げ

1. 再度スクリプトエディタを開く。
2. メニューバーから関数 `main` を選択し、「実行」をクリックする。
3. 「このアプリは Google で確認されていません」というポップアップが表示されるので、「詳細」→「slackMsgSaver に移動」をクリック。
4. 「許可」をクリックし、プロジェクトに権限を与える。

表 1 「setups」に記載する内容

セル	内容
A1	前回実行日時
A2	次回実行日時
A3	実行インターバル (日)
A4	保存対象外のチャンネル (1)
A5	保存対象外のチャンネル (2)
A6	保存対象外のチャンネル (3)
A7	保存対象外のチャンネル (4)
A8	保存対象外のチャンネル (5)
A9	保存対象外のチャンネル (6)

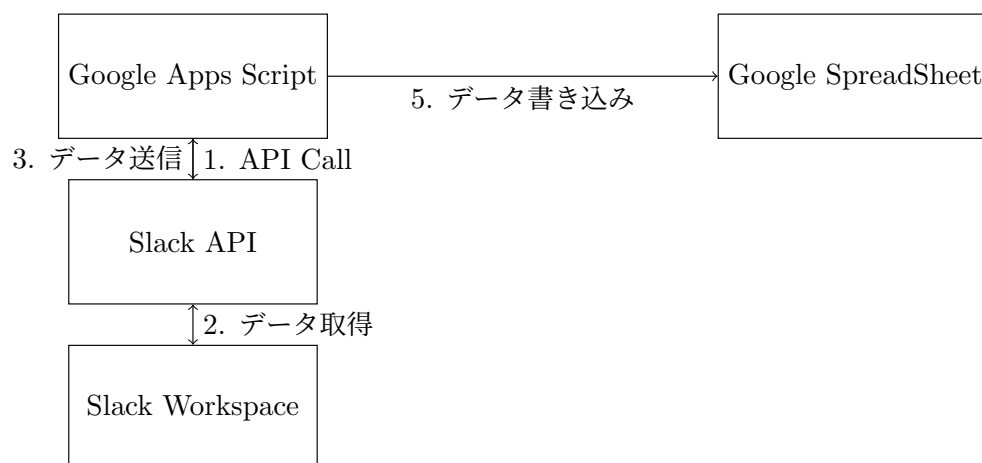


図 1 システムの模式図